

学区が一体となって防犯パトロール活動を行い、地域のつながりを強化

【六名学区】学区広域防犯パトロール活動

《学区データ》

学区名：六名学区

世帯数：5,542世帯

（平成26年3月1日現在）

《団体データ》

団体名：六名学区防犯パトロール隊

事業開始年度：平成23年度



◆取組のきっかけと経緯

学区内の町ごとにパトロール隊を組織しているため、従来は、各町で定期的にパトロール活動を行っていました。

平成23年度に、日ごろから安全なまちづくり推進指導員として、警察とも関わりを持ちながら活動を行っていた長坂秀志六名学区総代会長が、学区内や警察に働きかけをし、防犯パトロール隊を組織している学区内6町合同により、夜間の学区広域防犯パトロール活動を行うこととなりました。

防犯パトロール活動は、学区内6町とともに、岡崎警察署の警察官（学区内の交番）とも協力して、活動を行っています。

◆事業内容

毎年、春から夏にかけて1回と年末に1回の計2回、夜間の学区広域防犯パトロール活動を行っています。

活動には、学区内6町の住民約80名と岡崎警察署の警察官6～8名が参加し、学区内を北・南東・南西の3ブロックに分け、徒歩や青色回転灯パトロール車によりパトロールします。活動には、岡崎警察署長や愛知県警幹部も参加することもあり、学区と警察とが一体となって行っています。

◆成果

従来の防犯パトロール活動は、自分の町内だけの活動にとどまり、各町が独自に行っていましたが、学区として広域にわたり防犯パトロール活動を展開することで、自分の住んでいる町以外も回るようになります。そのことにより、学区としてまとまる意識が高まり、地域として一体感が生まれてきました。地域ぐるみで活動を行っていることで、実施回数は今までと一緒でも、効果は2倍、3倍に膨れ上がっています。

また、日常生活の中ではなかなか交番勤務の警察官と地域住民が接する機会がありませんが、こうした防犯パトロール活動を通じて、お互いを知る機会となり、交流を図るきっかけにもな

っています。学区内の安全安心を推進していく意味でも、地域と警察とがつながりを持つことはとても大きな効果があります。

さらに、こうした6町合同の防犯パトロール活動を行ったことにより各町の防犯パトロール隊も感化され、各町で定期的に行っている防犯パトロール活動を隣接する町も含めた活動に広げており、通常の活動における効果も倍増しています。

◆今後の展望・課題

六名学区では、年2回の防犯パトロール隊を組織する6町合同による学区広域防犯パトロール活動により、学区内の町を越えたつながりと地域の一体感を生み出すことができましたが、現在学区内のすべての町が防犯パトロール隊を組織している訳ではありません。

こうした学区内の複数の町の合同による防犯パトロール活動により生み出された効果を、より学区内に浸透させていくためにも、複数の町による組織化も含め、学区内のすべての町が防犯パトロール隊を持っている状況を作り、学区広域防犯パトロール活動を促進していくことにより、より一層学区内における地域のつながりや一体感を強化していきたいと考えています。

こんな工夫をしています！

●町名を書いたのぼり旗を持って活

動し、町民の防犯意識を啓発する

→ 6町合同による学区広域防犯パトロール活動を始めた2年目（平成24年）に、各町の町名を書いたのぼり旗を作りました。

防犯パトロール活動を行う際にのぼり旗を持って行うことで、町民にも「私の住んでいる町はこんな活動をしているんだ」と活動を認知してもらうことができ、町民の防犯意識の啓発を促進することにつながっています。



注目ポイント！

●地域のつながりが広がったことで、

波及効果も

→ 今までは、町ごとにそれぞれが防犯パトロール活動を行っており、なかなか学区内の町同士がつながりを持つ機会もありませんでした。しかし、こうした6町合同で防犯パトロール活動を行う機会が生まれたことにより、学区内の多くの町につながりが生まれ、防犯パトロール活動にとどまらず、防災訓練など別の活動も町を越えて行うといった波及効果が生まれました。

防犯や防災は、学区内の地域が一丸となって取り組む必要がある分野であり、こうして学区内の多くの町が一体となって活動が広がっていることは、とても意味の大きなものであるといえます。